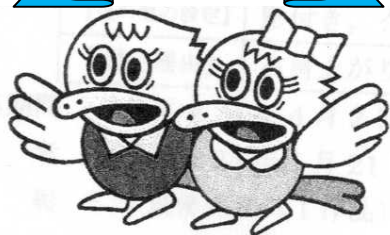


三重総支部

総支部情報



第11回三重総支部定時大会 開催！！

企画調整局

2022年6月7日（火）三重県勤労者福祉会館において『三重総支部第11回定時大会』が、1,154名の組合員を代表する代議員28名をはじめとした大会構成員参加のもと開催しました。

○総支部執行委員長あいさつ（山本 執行委員長）

【はじめに】

冒頭に、3年ぶりに総支部定時大会を集合形式で、職場組合を代表する皆様と対面で開催できたことに感謝申し上げます。さて依然と終息が見えない新型コロナウイルス感染症は県下で毎日300人前後発生しています。そのような状況下、職場組合員の皆さんにおかれては、感染拡大防止策を徹底したうえで日々の業務を行い、安定供給、事業継続に努めていただいていることに敬意を表します。引き続き感染対策の徹底をよろしくお願いいたします。



【安全衛生について】

何よりも最優先されるべきは安全と健康です。

昨年度の中部電力グループにおける災害は148件発生し、そのうち2名の尊い命がなくなっており大変憂慮すべき状況が続いております。いかなることがあっても死亡災害は避けなければなりません。また健康面では、メンタルヘルス患者数が依然として高止まりの傾向が続いております。

昨今ではコロナ禍の状況により人と人との物理的な距離が広がってしまったなどと言われておりますが、今一度原点に立ち返っていただき、職場内のコミュニケーションを充実させて、職場で働く仲間に対する気配り・目配り・心配りを大切にしていきたいと思っております。これからの季節は、作業環境も著しく厳しくなると思っております。お互いの声掛けで、安全作業・健康維持に努めていただきたいと思っております。

労働組合としてもアンテナを高くして早期情報収集に努め、支部役員と連携していきたいと思っております。

【魅力ある職場づくりについて】

昨今では、働き方の多様化や情報技術の急速な進展により、労働組合の活動の原点ともいえるコミュニケーションの形が変化してきているなどと言われておりますが、いかなる状況でも心の通ったコミュニケーションにより議論を行うことで、解決策は見出せるものであると考えています。労働組合の運動・活動を進めていく上で一番大切なことは、組合員の声を素早く的確に捉え、対応できる組織であり続けることでもあります。

コロナ禍により今まで通りの活動を展開することは難しい状況ではありますが、組織内コミュニケーションのさらなる充実を図り、組合組織の団結力をより強固なものにしていくよう努力してまいります。

職場組合員の皆さんにおかれても、労働組合の存在意義や役割を今一度ご認識いただくとともに、労働組合の次代を担う人材育成に向け、教育・青年部活動をはじめ組合活動全般における積極的な参加・参画をお願いいたします。

【労働条件について】

2022年春季生活闘争では、厳しい状況化であっても、組合員が生産性向上を果たしてきた証に他ならないことを繰り返し主張し、組合員の貢献努力と成果に報いることのできる賞与水準の確保と、賃金の引き上げに向け、最後までこだわった交渉を重ねてまいりました。しかしながら、会社は組合員の貢献努力は認めているものの、当社業績が8年ぶりの赤字見通しであることや電気料金の契約価格の見直しをお願いしていることなどを理由に、賃金引き上げについては頑な姿勢を崩さず、賞与水準についても極めて慎重な判断を下されなければならないといった姿勢に終始しました。組合として最終的にこれ以上の交渉に進展を図ることができないと判断し、「人財への投資のあり方について」労使で検討いただける土壌が形成できたことにより、解決の判断をしました。

当社のおかれている環境は大変厳しい状況にあり、このような時こそ組合員の力を結集し、当社をさらに成長させていかなければなりません。会社が競争時代を勝ち抜いていくためにも、組合員が成果を創出するに相応しい労働諸条件の確保と労働環境の整備に向けて、今後も取り組みを進めてまいりますので引き続きよろしく申し上げます。

【政治活動について】

今年7月に施行される第26回参議院議員通常選挙まで残すところ1か月となりました。

これまで、入会紹介活動や定着活動など組織の総力を結集した活動を展開してきておりましたが、今に至るまでのみなさまの取り組みに対してお礼申し上げます。

今回の選挙は、電力関連産業の抱える政策課題を実現させるため、私たち職場の声を国政の場に届けるためにも、何としても当選させなければいけない選挙になります。

これからの残り期間、組合員の方には選挙期間中に必ず投票に行ってもらえるような活動を展開していきます。目標達成に向けて組合役員をはじめ組合員の皆さんの絶大なるご協力をお願いいたします。

【最後に】

私たちの働き方もコロナにより大きく変わりました。しかしながらいかなる状況になろうとも「働く者の団結」と「組合員とその家族の幸せで豊かな生活」を目指す労働組合の基本理念は何ら変わるものではありません。「職場」を原点に、支部・総支部・本部が一層のコミュニケーションを深化させ、連携の強化を図り中電労組が一体となって組合活動に取り組んでいきたいと思っています。

三重総支部は、2021年度から組合専従が3人体制となりましたが、支部との連携を密に取ることを優先し、1年間活動を展開してまいりました。

これからもしっかりと思いを伝え心と心が通じあう組織を作っていきますので引き続きよろしく申し上げます。

以 上

2022年度 三重総支部執行委員 17名 (任期1年)

氏名	役職	支部・分会	氏名	役職	支部・分会
山本 和典	三重総支部 執行委員長	松阪営業所支部 配電建設分会	三山 孝幸	尾鷲営業所支部 執行委員長	尾鷲営業所支部 契約サービス分会
中川 真成	三重総支部 副執行委員長	津電力センター支部 送電分会	亀田 勉	伊勢営業所支部 執行委員長	伊勢営業所支部 配電分会
辻 真理菜	三重総支部 書記長	四日市営業所支部 契約分会	宮崎 裕介	四日市営業所支部 執行委員長	四日市営業所支部 契約分会
村上 和真	三重支社支部 執行委員長	三重支社支部 配電建設分会	一見 泰生	桑名営業所支部 執行委員長	桑名営業所支部 配電分会
川合 順	三重支社支部 副執行委員長	三重支社支部 不動産管理分会	阪田 恵介	鈴鹿営業所支部 執行委員長	鈴鹿営業所支部 契約サービス分会
井倉 涼	三重営業部支部 執行委員長	三重営業部支部 法人営業分会	榊山 亮	津電力センター支部 執行委員長	津電力センター支部 変電分会
中角 啓吾	津営業所支部 執行委員長	津営業所支部 配電運営分会	小森 一輝	四日市電力センター支部 執行委員長	四日市電力センター支部 変電分会
小林 正典	伊賀営業所支部 執行委員長	伊賀営業所支部 契約サービス分会	小田 英伸	三重水力センター支部 執行委員長	三重水力センター支部 技術分会
北角 信人	松阪営業所支部 執行委員長	松阪営業所支部 契約サービス分会			

2022年度 会計審査員 2名 (任期1年)

氏名	支部・分会	備考
林 優希	三重支社支部 三重ビジネスセンター分会	(本部会計監査 兼務)
山本 愛子	三重支社支部 人事分会	

○2021年度 経過報告

執行部報告どおり承認。

○議事

「第1号議案」2022年度 活動方針(別紙-1)

執行部提案どおり可決決定。

「第2号議案」2022年度 予算(別紙-2)

執行部提案どおり可決決定。

「第3号議案」三重総支部運営規定の一部変更(別紙-3)

執行部提案どおり可決決定。

2022年度 活動方針(案)

はじめに

我が国の経済は、新型コロナウイルス感染症の新たな変異株による感染拡大の影響が継続する状況にあり、感染防止対策と経済政策の確実な推進による景気を持ち直しが期待されています。また、超少子高齢化や生産年齢人口の減少という社会構造的な課題を抱えるなかで、世界的な潮流となっているカーボンニュートラルの実現に向けた取り組みの加速や、デジタルトランスフォーメーションの進展などにより、産業構造や生活様式が大きく変化し始めています。

エネルギー事業を取り巻く情勢は、電力・ガスの全面自由化に伴う競争の激化や、原子力発電の新規制基準に関わる適合性審査の長期化、大規模災害時におけるレジリエンスの強化、再生可能エネルギーの増加に伴う電力システムの高度化など事業基盤に関わる様々な課題が顕在化しています。

また、2050年カーボンニュートラル実現を目指した国の政策目標が掲げられるなかで、昨年10月には野心的な温室効果ガスの削減目標が織り込まれた第6次エネルギー基本計画が閣議決定されました。各事業分野においては、洋上風力をはじめとした再生可能エネルギーの最大限の導入や、水素・アンモニアサプライチェーンの構築、安全を最優先とした原子力発電の活用と次世代炉の研究開発など、今後の新たなエネルギー政策の実現に向けた論議や取り組みが開始されています。

当社においては、エネルギーの安定供給という変わらぬ使命を果たし続けるとともに、取り巻く環境や社会構造の変化を見据えた、脱炭素化や安心・安全な循環型社会の実現を目指した新たなビジネスモデルの構築や、グローバルな事業領域の拡大に向けた取り組みなどがスタートしています。レジリエントで最適なエネルギー供給とデータプラットフォームの構築によるコミュニティーサポートインフラの提供をはじめ、多様なアライアンス先やステークホルダーとの連携強化、これまでの業務に付加価値を加えた新たなサービスの展開などが着実に進められるなかで、今後の人財戦略や技術開発の強化に対応すべく、組合員一人ひとりの意識変革と行動変容が必要とされています。

労働組合としては、今後の中部電力各社で展開される新たな事業戦略や様々な経営諸施策に対し、これまで築き上げてきた健全な労使関係のもと、各級機関や職場組合員皆さんとの意思疎通をしっかりと図り、職場実態に基づく意見提起やチェック・フォローを行うことで、適切な会社対応に努めていきます。

組合組織と活動の在り方については、今後も継続的な組合員数の減少が想定される状況において、活動の更なる効率化や組合財政の適正な運営と、将来に亘って強固な組織力を維持すべく必要な活動の継続を両立させていかなければなりません。今後の会社組織の改定などを踏まえ、労働組合としての役割や責務をしっかりと果たし続けられる組織体制と、その時々における職場実態や組合員のニーズを捉えた効果的かつ効率的な活動の実践について、各級機関との連携を図り検討を進めていきます。

本年は、第6次エネルギー基本計画に基づき中長期的なカーボンニュートラルの実現に向けた取り組みが実現されていくこととなります。その中において、脱炭素化とともに経済性やエネルギーセキュリティといった観点において優れた、原子力発電の必要性は今後も変わることはありません。当社の浜岡原子力発電所においては、新規制基準適合性審査への対応や関連施設の安全性向上対策などが進められており、労働組合としても、社会や地域の皆さまに発電所の高い安全性や必要性をご理解いただけるよう、引き続き、組合組織のチャンネルを活かし、積極的なPA活動を推進してまいります。

職場で働く全ての人の安全と健康を確保することは、労使双方に共通した最優先課題であり、いかなる事業環境・事業体制においても変わることはありません。近年は、墜落や感電などの電力関連産業に特有の重大災害が多く発生するとともに、心身の疲れやストレスの増大などによるメンタルヘルス疾患管理者数も高止まりの傾向にあり、極めて憂慮すべき状況が継続しています。

業務繁忙が継続する職場や作業現場での安全確保、コロナ禍における職場内コミュニケーションの重要性などを踏まえ、安全で安心して働くことができる職場環境づくりと、組合員一人ひとりが、安全衛生に対する意識をより一層高めていくことができる取り組みを展開していきます。

職場では、厳しい要員事情とともに、新たな経営諸施策への対応や熾烈な競争環境下における販売活動、災害時対応をはじめとした安定供給への取り組み、浜岡原子力発電所の審査対応などによって業務繁忙の状況が継続しています。それぞれの職場では、TPSをはじめとする業務効率化施策の取り組みが進められていますが、当社の総実労働時間は依然として高い水準にあります。

一方では、デジタルトランスフォーメーションの進展や新型コロナウイルス感染症の感染拡大と相まって、社会全体で新たな働き方が浸透しつつあり、当社においても、コアタイムを廃止し断続勤務を可能としたフレックスタイム勤務制の導入や、在宅勤務制度の適用拡大、出張時における私有車利用の一部見直しなど、新たな制度の運用が行われています。引き続き、社会情勢や取り巻く環境の変化を見極めつつ、職場との連携を十分に図ることで、組合員の皆さんがワーク・ライフ・バランスを実現することができ、やりがい・働きがいを持って業務に邁進できる、労働諸条件の確保と職場環境の整備を目指し取り組みを進めていきます。

今後も組合組織の健全な維持・発展を果たしていくためには、次代を担う人材の育成とともに、男女平等参画社会の実現を目指した取り組みと、多様な人材がいきいきと働くことができる職場環境づくりが重要となります。そのためには、充実した教育活動や青年部活動を継続して推進するとともに、女性の労働組合活動への参画推進について、電力総連が掲げる「男女で担う労働組合活動への参画推進計画」を踏まえ、各級機関との連携を図りながら取り組みを進めていきます。あわせて、組合員のみならず私たちと同じ職場で働く仲間が安心して働くことができるよう、労働組合の相談窓口である「ユニオンホットライン」を活用した対応を行っていきます。

私たちは政治への責任ある参画を通じて、労働者や生活者の目線に立った政治の実現とともに、エネルギー関連産業における現場の実状を踏まえた政策を実現するため活動を進めてきました。

我が国は現在、新型コロナウイルス感染症に関わる対応はもとより、不安定雇用や格差の拡大、社会保障制度や外交・安全保障に係る情勢など、内外に多くの政治的課題を抱えており、とりわけエネルギー・環境問題に関わる政策は私たちの事業環境に大きく影響することになります。これらの政策課題に対し、現場の声や実態を踏まえた現実的な議論がなされるようにしていくためには、国政の場に私たち働く者の代表である組織内国会議員を送り出し続けていかなければなりません。そのために私たちは、目前に控える「第26回参議院議員通常選挙」において、電力総連組織内候補者として新たに擁立した「竹詰ひとし」氏の必勝に向け、組織一丸となって精一杯の活動を展開していきます。

また、来年4月には統一地方選挙を迎えることとなりますが、組織内候補者はもとより、私たちの運動理念や基本政策に理解いただける組織外候補者の必勝を勝ち取るべく、組織の総力を結集し最大限の取り組みを進めていきます。

当社は、2030年、2050年の脱炭素化やデジタル化が進展する社会像を見据え、新たな事業価値の創造に向けた様々な取り組みを加速させていくこととなります。あわせて、私たちの働き方や取り巻く環境も大きく変わり続けていくこととなりますが、「組合員とその家族の豊かで幸せな生活の実現」「組合員が活力をもって明るく働くことが出来る職場づくり」という、労働組合として果たすべき役割と責任が変わることは決してありません。

これまで中電労組が培ってきた組織としての一体感を大切に、職場組合員一人ひとりの積極的な参加と協力により、希望を持って前に進むことが出来る社会・職場・家庭を築いていきましょう。

以上

組合員のための活動をめざして

1 コミュニケーションと充実した組織運営

労働組合の原点は職場にあることを踏まえ、組織内コミュニケーションの充実に向け、「職場の声」を大切に組合員の意見を十分に聴くことができる組織運営に取り組みます。

また、「支部・総支部・本部」の連携を充実し、「職場の本音」「組合員の本音」を吸い上げる事が出来るよう「対話集会」や「各種会議」等を通じ、充実した組織運営に取り組みます。

2 人間性豊かな人財育成

組合員教育については、このような時期だからこそ、しっかり実施する必要があります。魅力ある組織と人間性豊かな人財育成に向け、そのねらい・目的が果たせるよう、わかりやすく、理解しやすい教育を行います。

青年部については、「次世代のリーダー育成」、「組織活性化」や「豊かな心の育成・人間形成」を目的に、自主活動を基本に各級機関との連携を図りながら、取り組みます。

また、青年部活動への理解や活性化を図るため、情宣活動も積極的に進めます。

3 ふれあい行事の開催

行事の開催は、組合員相互の交流と家族のふれあいの場と捉え「ふれあいイベント」として継続します。行事開催にあたっては、機関会議で費用対効果も十分検討したうえで開催内容を決定します。

また、政治連盟主催の地域会行事にも協力していきます。

4 わかりやすい情宣活動

組合の活動状況・労使協議の内容・各種イベント案内等について、「総支部情報」を発行し情報提供に努めます。

また、中電労組ホームページ内の総支部コーナーを活用し、タイムリーな情報の提供に努めます。

安心・安定した生活基盤の確保に向けて

1 生活の安定

これまで築きあげた諸制度を活用して、組合員とその家族の生活の安定に努めます。組合員に対し、会社の諸制度や中電生協の各種サービスについて「生活の知恵袋」や「ハッピーガイド」等を活用して、各種教育等の機会を通じてPRします。

また、可処分所得向上のための「保険見直し相談」、税金・法律関係の「各種相談」窓口として対応いたします。

2 普通休暇の取得促進

一人ひとりが健康でイキイキと働くためには、業務にメリハリをつけ、心身のリフレッシュを図ることが大切です。引き続き、普通休暇の流出休暇ゼロをめざし、組合員一人ひとりの意識醸成や計画的に取得できる働き方の定着に向け、労使一体となり取得しやすい職場の雰囲気づくりに取り組めます。

3 やりがいを持って働ける労働諸条件の確保

組合員がやりがい・働きがいをもって業務に邁進でき、将来にわたり安心して働くことのできる労働諸条件の確保を第一義に、組合員の意見を積極的に吸収することのみならず、職場実態の適正な把握に取り組めます。

また、分社化により中部電力各社が新たな事業体制へ移行した現在においても、総合エネルギー企業グループであるという使命は不変であり、一体感のある会社であることが求められるため、職場における一体感の醸成に係る実態把握に向け、本部と連携を密にして対応していきます。

4 2023 春季生活闘争

2023 春季生活闘争については、経済情勢や電気事業を取り巻く情勢等を考慮する中で、これまでの交渉経過等も十分に踏まえつつ、組合員の生活の安心・安定につながる労働条件の確保を基本に、上部団体と連携を密にして取り組めます。

「職場オルグ」については、複数回開催を含め、組合員から意見の出しやすいオルグ活動に努めます。

明るく活力のある職場を求めて

1 的確な労使協議の実践

経営諸施策を展開するのは職場であることを前提に、分社化により中部電力各社が新たな事業体制へ移行した現在における、各職場の自律的な取り組みなどを的確に把握し、労働組合としてのチェック機能を果たします。

また、施策の目的や必要性、内容が職場で十分に理解されることを基本に、職場の実態・意見を踏まえた内容であることや、職場への影響を考慮し適時適切な労使協議を行います。

その協議内容については、組合員に分かりやすい内容で、情宣活動に努め、必要によっては、再論議を実施して適正なフォローを実施します。

2 適正な労働時間管理と適正な要員配置

働き方に関する運営協議会、労使協議、労使懇談会の機会を捉え、年間総労働時間の短縮施策、普通休暇の取得向上策について、職場の時間外労働時間数や休暇取得数を一つの指標として、時間的・精神的なゆとりの確保ができるよう取り組みます。

対話集会等の会議体を通じ、職場の声を聴くことに加え、「支部・総支部」の連携を充実させ、日々の活動の中で職場の状況を把握し、会社へ意見提起するなど、職場状況を踏まえた労使協議を行います。

3 安全と健康の確保

夏季・冬季の安全衛生活動、機関紙を通じて組合員が実践できる意識啓蒙活動に取り組みます。

また、支所安全衛生委員会による課題を中心に内容の共有化や職場環境実態調査を踏まえ、労使で課題改善を図ります。

さらに、「安全と健康は何よりも優先する」との認識のもと各種行事を通じて、職場、組合員同士の風通し良い職場づくりに努めます。

4 エネルギー政策・電気事業制度改革への対応

地球環境とエネルギー政策に寄与する浜岡原子力発電所をはじめとする原子力発電の信頼回復に向けた理解活動について、組合のチャンネルを活かし展開します。

また、関係諸団体が進める環境・エネルギー政策の諸活動に積極的に支援・参加します。

エネルギー政策や電気事業制度改革についてはその動向を注視し、情報収集に努め、適宜職場へ展開するとともに、会社の対応も確認しつつ、上部団体と連携を図りながら必要な対応を進めます。

安心して暮らすことのできる社会をめざして

1 社会貢献活動の実践支援

加盟団体（連合・労福協等）が取り組んでいる社会貢献活動に参画し、地域社会との共生に向けた諸施策等を進めます。

2 三重県電力総連活動の支援

三重県電力関連産業に働く仲間との連帯をめざして、中核組織として活動の充実に向け、積極的に取り組みます。

3 政治活動の理解と各級議会選挙での必勝

執行委員会や議員活動報告会、各種行事等の場で、組織内国会議員および組織外推薦議員による活動報告や意見交換を行い、議員が身近に感じられる活動に努めます。

本年7月に施行予定の第26回参議院議員通常選挙の比例代表選挙においては、電力総連組織内推薦候補者「竹詰 ひとし」氏の必勝に向け、組織の総力を結集して取り組みます。

また、各級議会選挙については、私たちの運動理念と基本政策を理解する候補予定者の必勝に向けて取り組みます。

以 上

第2号議案

2022年度 予算(案)

		予算額 (単位：千円)
大会費	会場費	40
	旅費	126
	消耗品費	0
	諸雑費	106
	小計	272
会議費	会場費	130
	旅費	448
	諸雑費	100
	小計	678
事務費	会場	10
	旅費	7,553
	消耗品費	981
	通信運搬費	375
	諸雑費	600
	小計	9,519
教育宣伝費	一般活動費	978
	青年活動費	1,929
	教育費	751
	小計	3,658
雑費		610
人件費		46
会費		250
その他行事費		4,334
合計		19,367

第3号議案

三重総支部運営規定の一部変更(案)

題記について、三重総支部運営規定第49条に基づき、次のとおり変更したい。

1 変更主旨

会社組織の一部改定に伴い、三重総支部運営規定の一部を変更する。

2 変更内容（下線部分が変更箇所）

	変更前	変更後
第4条	この総支部は中部電力パワーグリッド株式会社三重支社管内事業場，中部電力ミライズ株式会社三重営業本部，中部電力株式会社三重ビジネスサポートセンターおよび <u>中部電力株式会社</u> 三重水力センターに所属する労働者で組織する。	この総支部は中部電力パワーグリッド株式会社三重支社管内事業場，中部電力ミライズ株式会社三重営業本部，中部電力株式会社 <u>地域共生三重グループ</u> ，三重ビジネスサポートセンターおよび <u>中部電力株式会社</u> 三重水力センターに所属する労働者で組織する。

3 実施時期

2022年6月7日

以上